

新しい日常の始まり

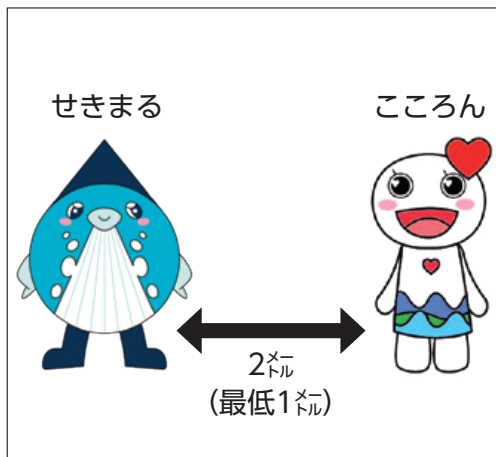
一人ひとりの基本的な感染対策で防ぐ

マスクを着用しての外出、小まめな手洗い、アルコール消毒など、新型コロナウイルス感染症対策をする生活にも少しずつ慣れてきたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスと向き合う新しい生活が市内でも始まっています。

保健医療政策課
(☎231-1530)



マスクの着用



身体的距離の確保



手洗い・手指消毒

4月16日に全国に緊急事態宣言が出され、山口県の緊急事態宣言が解除されたのが5月14日でした。下関市では、7月5日時点で、6人の方に新型コロナウイルスの感染が確認され(うち死亡者0人)、今年の1月31日からの電話相談件数は5751件になっています。現在は、休業要請がすべて解除され、学校や公共施設の再開など、少しずつ、以前の暮らしに戻りつつあります。

しかし、新型コロナウイルス感染症の脅威は、まだ取り除かれたわけではありません。日本各地で感染者が確認されており、いつ私たちの身の回りで発生してもおかしくない状況です。

以前のままの生活様式では、自分を含め家族や地域、自分の大切な人を新型コロナウイルス感染症から守ることはできません。新しい生活様式を実践し、感染症のリスクを減らしながら、以前の暮らしを取り戻していきましょう。

新しい生活の中での熱中症予防

新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために「新しい生活様式」と

熱中症予防のポイント

- ・暑さを避けましょう
- ・適宜マスクを外しましょう
※気温・湿度の高い中でのマスク着用は要注意 ※屋外で人と2m以上離れているときはマスクを外す
- ・小まめに水分補給しましょう
- ・エアコンの使用(小まめに換気も)
- ・日頃から体調管理をしましょう
- ・暑さに備えた体づくりをしましょう

して、一人ひとりが感染防止の基本である「マスクの着用」「身体的距離の確保」「手洗い・手指消毒」や「3密(密集・密接・密閉)」を避ける」などの対策をとることが必要ですが、気温が上昇する夏は、熱中症への警戒が必要です。

マスクは飛沫の拡散予防に有効ですが、高温や多湿といった環境下での着用は、熱中症のリスクが高くなる恐れがあります。屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクを外すようにしましょう。喉が渇いていなくても、小まめに水分補給することも重要です。

●掲載する内容は7月15日現在のものです。新型コロナウイルス感染症対策等により、内容を変更する場合があります。最新情報についてはホームページ等で確認するか問い合わせ先にご確認ください。

保健所長からのメッセージ

下関市では、3月3日に中国地方で第一例の新型コロナウイルス感染症の感染例を認めました。その後も断続的に感染を認め、市民の皆さんは緊張感と不安な思いを抱えながら、この数カ月間を過ごされたかと思えます。そんな中、多くの医療従事者が、下関の医療を守るために臨床現場の最前線で戦っています。今回は、本市の医療体制について紹介します。

まだ国内で数例の感染しか認めていなかった1月下旬から、市内の中核的な医療機関の方々に何度も集まっていたいただき、医療崩壊が本市で起こることを防ぐために何ができるか、繰り返し協議を重ねてきました。当初、市内には感染症を専門に診療する病床は6床のみでした。すぐに対応可能な病床

下関保健所
九十九悠太 所長

を増やせばよいと思うかもしれませんが、医療機関で新型コロナウイルス感染者を受け入れることは、専門の医療従事者や医療物資の確保のみでなく、感染者と非感染者を区別するゾーニングに要する設備改修、通常診療への影響による収益の大幅な減少など、大きな負担が伴います。感染者を受け入れることで生じる院内感染のリスクや風評被害など、さまざまな思いがあったのではないのでしょうか。最終的に、下関の医療を守るために病床確保を表明した医療機関には、本当に大きな決断をしていただきました。現在、本市では新型コロナウイルス感染症に対応する病床を128床まで拡充しています。これは、国から示された考え方を基に算出した本市の推計最大患者数を上回る規模です。

また、本市では、地域の外来診療を守るための発熱外来を、下関市医師会、下関市薬剤師会の皆さんの協力により、全国的にも早期に設置することができました。発熱外来は、それぞれの医療従事者が自身の職場を抱えるなかで、下関のために自主的に手を挙げて輪番を組んで出務することで成り立っています。地域のために自ら最前線に立っている医療従事者の存在があることを、市民の皆さんにぜひ知っていただきたいです。もちろん、現在本市において感染が抑えられているのは、医療従事者の奮闘に加え、市民の皆さん一人ひとりに感染対策に協力いただいている結果です。一方、医療従事者への風評被害が生じているのも、私たちが、真面目に感染予防に取り組んだ結果、感染を恐れ過ぎた一面を現わしているのかもしれないかもしれません。そんな中、本市には、医療従事者へのさまざまな支援を目的とした寄付が届いています。頂いた物資とともに、医療従事者を応援する数多くの市民の気持ちを届けることで、医療従事者をサポートできればと考えています。

新型コロナウイルス
相談窓口
(帰国者・接触者相談センター)
☎250-7778
FAX: 231-1376(聴覚障害の方)
.....
午前9時～午後5時
※平日、土・日曜日、
祝日問わず開設

次亜塩素酸水を使う場合の 注意事項

▶有効な消毒・除菌方法



- 次亜塩素酸水を手指消毒に使用することは控えましょう。(医薬品や医薬部外品の承認を受けたものを除く)
- 空間噴霧では人が吸入しないよう注意してください。
- 空気中の浮遊ウイルスの対策には、消毒剤の空間噴霧ではなく、換気が有効です。
- 塩素系漂白剤等に用いられている次亜塩素酸ナトリウムは、次亜塩素酸水とは異なり、人体への刺激性が強いので、間違えないように表示を確認しましょう。



▲前を向いて、しゃべらないようにして食べる給食

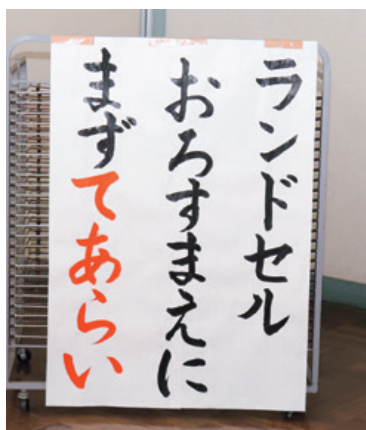


▲フェイスシールドを着用してのグループワーク

小学校の新しい日常



▲小まめに手洗い



▲授業の合間などに小まめに水分補給



▲放課後には、先生が机やいすなどを消毒

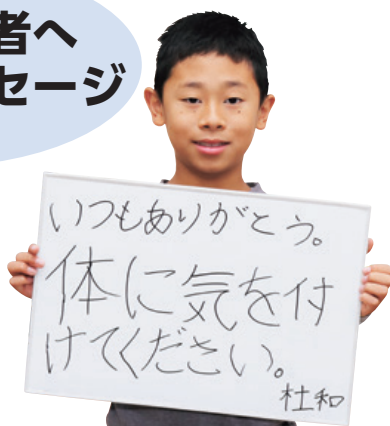
ランドセル
おろすまえに
まずてあらう

市内の小学校は5月14日から再開しました。養治小学校では、児童が自宅で体温をチェックし、登校時に教室に入る前には、手洗いをしています。教室の机は間隔を置いて並べられるなどの対策がされています。

熱中症予防のため、教室はエアコンと扇風機をつけながら、窓を開けて換気も行い、水分補給をしっかりするようにしています。給食は、児童同士が対面にならないように、前を向いて、しゃべらないようにして食べていました。

柴田校長は「コロナや熱中症の対策をしっかりとって、子どもたちには、人と会って話せる楽しさを精一杯感じてほしい」と話してくれました。

医療従事者へ 感謝のメッセージ



養治小学校
柴田 千明 校長

※イルカとアシカの共演ショーは7月16日から当面の間、中止しています



海響館の新しい日常

約3カ月半の休館を経て6月19日から本格的に営業を再開した海響館。入口に体温を測定するサーマルカメラを設置し、体温が37.5度以上の方や、着用品が困難な場合を除いて小学生以上でマスクを着けていない方の入館をお断りしています。お客さまは入口で手指を消毒して館内に入ります。イルカとアシカの共演ショーを行うア

クシアターでは、来館者が密集しないように、席数をおよそ半分に制限して実施していました。海響館スタッフの春名さんは、「休館中には、『生き物たちは、元気ですか』と、心配の連絡をいただきました」。久しぶりに生き物に会えたお客さまからは、喜びの声が聞かれたそうです。「新型コロナウイルス対策で、ご不便をお掛けしますが、海響館の生き物に会いに来てください」

飲食店の新しい日常

飲食店店主の野澤さんに話を聞きました。「東京で緊急事態宣言が出され、お客さまが減っていき、スタッフでどうしようかと話し合っているときに、フェイスブックで、業態転換補助金の存在を知りました」。この補助金を利用しガラス張りの出窓だったところを、テイクアウトカウンターに改装しました。



「45年続いている店でテイクアウトは初めての試みでしたが、お客さまに、自宅でも食事を楽しんでいただけるようになりました」。お店では、入口での手指の消毒のお願いをしたり、席数を減らしたり、客席の間にビニールシートを張るなどの対策をとっていました。テイクアウトを始めることで、新規のお客さまもでき、お客さまも少しずつ戻ってきているそうです。

●掲載する内容は7月15日現在のものです。新型コロナウイルス感染症対策等により、内容を変更する場合があります。最新情報についてはホームページ等で確認するか問い合わせ先にご確認ください。